

老人

一八九七

カフェの騒がしい片隅で

頭をつくえに伏せて老人がすわっている。

連れはない。前に新聞紙。

老年のありきたりのあわれな姿。

老人は思う、強く賢く見目よかった時を、

楽しまずに過ごした歳月の多くを。

ずいぶん歳をとった。知っている。わかる。感じもある。

若かったのはほんの昨日。そんな気がする。

時は過ぎた、速く、実に速く。

「分別」が自分を愚弄した。老人は思う、

バカだった。いつも信じた あのごまかし。

「明日にしよう。時間はまだたっぷり」。

思い出す。衝動に口輪をはめた。喜びを犠牲にした。

失ったせつかくの機会がかわるがわる現れて

今あざわらう、老人の意味なかった分別を。

さて考えすぎた。思い出しすぎた。

頭がくらくらする。ねてしまう老人、

頭をカフェのテーブルにやすめて。



A sketch of "An Old Man" (1879)







17.1
- 2.0



タイトル

4.0
4.0



7y7p015
~~7y7p015~~

ハ
ト
の
鳴
き
声
3.0
9.0

~~2.0~~
6.0



31

137, 7, 27

3.0
9.0



顔をか

ハ
ト
の
鳴
き
声
3.0
12.0

3.0
12.0



顔をか

ハ
ト
の
鳴
き
声
2.0
14.0

2.0
14.0



31 (遠景)
白土に埋まると
木、石、空、鉄塔

ハ
ト
の
鳴
き
声
4.0
18.0

4.0
18.0





